

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 23 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02423

研究課題名(和文) 近・現代東南アジア地域における日本語文献の受容・流通についての研究

研究課題名(英文) The Study on the Distributions and the Receptions of Modern Japanese Books in Southeast Asian Countries

研究代表者

和田 敦彦 (Wada, Atsuhiko)

早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授

研究者番号：90283225

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、東南アジアの各国において、近代の日本語文献がどのように流通、所蔵、管理されているかを明らかにした。特に現地機関自体の管理、調査が難しい資料、戦中、戦前の文献を重点的に調査した。この過程で、インドネシア国立図書館(ジャカルタ)、及びベトナム社会科学院(ハノイ)に大規模な戦前、戦中の日本語蔵書を発見した。これらを現地機関の協力を得て調査し、目録を作成、公開した。また、これらの蔵書の形成過程を明らかにした。これら資料を生み出した要因として、第二次大戦中の日本の文化外交活動が大きく作用したことが明らかになったため、この時期の日本の文化外交に焦点をあてて新たな研究に発展させることとした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、これまでに調査がなされていなかった東南アジア地域に所蔵されている日本語資料、特に戦中、戦前の資料の所蔵やその状態、管理上の問題の基礎的な情報を収集、整備し、東南アジア各国と日本の関係史、交流史を明らかにする基盤となる情報を整備することができた。特に、インドネシア国立図書館、及びベトナム社会科学院では、この研究によってこれまで知られていなかった大規模な日本語資料が利用できる環境を作り上げることができた。また、日本語資料が東南アジアに戦前、戦中に広がっていく過程や、その要因についても明らかにすることが可能となった。

研究成果の概要(英文)：This study aims to clarify the distributions and the receptions of modern Japanese books in Southeast Asian countries, and it also aims to study the sizes, the qualities and the managements of Japanese book collections in these countries. I focused on the books published before the World War II in this study, because it is difficult to manage these items for the scholars and librarians in these countries. I found two major collections in the National Library of Indonesia in Jakarta, and in the Vietnam Institute of Social Sciences in Hanoi in my study. I planned next project to clarify the relationship between Japan's cultural diplomacy during and before the World War II, and the formations of these collections, because I realized the close relationship between them.

研究分野：日本近代文学

キーワード：読書 日本近代文学 蔵書史 文化外交 東南アジア

1. 研究開始当初の背景

本研究代表者は、近代の日本文学研究をベースとしつつ、様々な国や地域における日本語図書
の所蔵、受容を研究している。これまでも北米や東南アジア地域における日本語図書の所蔵状
況や利用環境、歴史を調査し、それらの研究成果を公開してきた。こうした海外における日本語
蔵書の歴史や利用環境についての研究は、日本の文学や文化がどのように海外で受容、評価され
ているかを明らかにしてくれるとともに、それらの地域と日本とのこれまでの、そして今後の関
係を研究していく際の重要な基礎情報ともなる。

これまでに、北米の主要日本語蔵書についての調査を行い、研究成果をあげてきた。
一方で、日本研究の環境が整っている欧米と異なり、東南アジア地域においては、日本研究の環
境や日本語蔵書についての情報がいまだ十分に整備されていないことを痛感させられた。その
ため、その後、東南アジアの国々における日本語蔵書や、日本学の研究環境についての調査を開
始した。平成 23 年度から平成 27 年度に支援を受けた科学研究費補助金基盤研究 (C)「読書
環境の歴史調査に基づいた近代文学の研究・教育方法の構築」は、海外における日本語文献の読
書環境、所蔵状況の調査も含んでおり、そのもとで、東南アジア地域の予備調査を進めることと
なった。

調査の過程で、ベトナムではこれまでに調査が及んでいない二万冊を超える日本語図書を見
いだし、現地機関と連携したその活用・公開のための研究プロジェクトを開始した。それ以外の
東南アジアの地域でも、すでにタイ、インドネシア、フィリピン、マレーシア、シンガポールで
の初期調査を完了し、いくつかの貴重な日本語蔵書の所在を確認している。これらの成果により、
平成 27 年度には国文学研究資料館の共同研究、及び、早稲田大学の特定研究課題に採択され、
個々の蔵書調査が進んでいる。

これら東南アジア地域での個別の調査を総合し、より系統的に、まとめあげていくために、本
基盤研究は構想されている。東南アジア地域における日本語資料は、十分な調査がまだなされて
おらず、同時にそれら資料が十分にそれらの国々での日本研究者に活用されてもいない。東南ア
ジア地域の日本研究者が相互に研究資源を活用し、連携していく基盤となる研究情報の集約と、
それらを効率的に発信し、各地の研究者を結びつけていくための仕組み作りが必要である。本研
究では、各地の日本語資料の調査とあわせて、その情報を基軸に各地の日本文学・文学研究機関
相互の連携を進展させていくこととなる。

2. 研究の目的

本研究が目的とするのは、東南アジアの各国において、近代から現代にかけて日本語書物がど
のように流通し、所蔵され、現在に至っているのかを解明することにある。そのことは同時に、
東南アジア地域における日本についての関心や日本文化の受容、さらには同地域での日本文化・
文学の研究の展開を明らかにすることにつながる。また、これら地域における日本語文献の所蔵
情報を公開し、国際的に共有していくことで、同地域内の日本文化・文学についての研究活動を
支援し、国内外での日本研究の連携・促進をはかっていく。各地の所蔵資料には近代以前の資料
も含まれるため、所蔵資料情報の提供を通して広く日本文学・文化の研究に有用な情報を提供し
ていくことともなる。

これまで、東南アジア各国の日本語文献の所蔵状況を調査してきており、ベトナム、インドネ
シア、カンボジア、シンガポール、マレーシア、及びフィリピンについては首都周辺の主要機関
を中心に情報収集を進めてきた。ただミャンマー、タイ、及び東南アジア各国の規模の大きい地
方都市について、補完的な調査が必要となる。研究期間内には、東南アジア地域の日本語文献所
蔵、流通の変化、及び現状の全体像が把握できるようになる。これとあわせて、すでに発見済
みのまとまった日本語文献については、当該国の所蔵機関と協力し、その資料の状況、内容、歴
史についてのより具体的な調査を進めていきたい。平成 27 年より本格的に現地との共同研究
を開始したハノイのベトナム社会科学院社会情報科学研究所所蔵の日本語資料、及び、インドネ
シア国立図書館所蔵の未整理日本語資料についても、本研究計画と連携させることによって、期
間内に具体的な調査を完了することとしたい。このことはまた、第二次世界大戦期において日本
が東南アジア各国で展開した文化政策や、その役割、影響をも同時に明らかにすることともなる。
本研究には、これまで述べた各国所蔵の日本語資料調査という目的と、もう一つの目的、すなわ
ち、それらの学術情報を東南アジア地域において共有し、各地の研究機関が連携していくための
ネットワークを構築していくこと、そしてまた、そのことを通して各地の日本学・日本研究者の
研究を支援していくことも研究目的の重要な部分をなしている。単にその地の資料を調べるの
ではなく、現地の資料を、現地の研究者が研究に生かせるような環境作り、学術環境の整備をも
視野に入れて構想された研究である。

3. 研究の方法

本研究においては、主に以下の 3 つの調査によって基盤となる情報を作成する。1) 東南アジ
ア地域における日本語資料の所蔵状況、所蔵環境についての概要調査、2) 東南アジア地域の調

査済み所蔵機関のより詳細な資料内容の調査と目録作成、3) 東南アジア地域の日本文化研究機関の歴史と現状についての情報収集・整備である。そして、これらの調査の成果をもととして、各地の所蔵資料の目録情報作成とその公開、及び東南アジア地域の研究機関相互の連絡をはかるための支援ネットワークのデザインを行う。あわせて、近代の日本文化・文学受容と流通が、同地域でどのように展開したかを総合的に明らかにする分析・考察を行い、その成果を広く公開する。

1) 東南アジア地域における日本語資料の所蔵状況、所蔵環境についての概要調査

まず、東南アジア地域における日本語資料の所蔵状況、所蔵環境についての概要調査についてである。本研究代表者は、すでに科学研究費基盤研究(C)「読書環境の歴史調査に基づいた近代文学の研究・教育方法の構築」の一環として、海外における日本語図書の見学状況、特に東南アジア各地での日本語図書の読書環境の概要を調査してきている。これまでにベトナム、フィリピン、カンボジア、マレーシア、シンガポール、インドネシアについては概要調査が完了、または平成27年度中に完了予定であり、未調査地域を重点的に訪問調査し、概要調査情報の充実をはかることとする。

2) 東南アジア地域の調査済み所蔵機関のより詳細な資料内容の調査と目録作成

次に東南アジア地域の調査済み所蔵機関について、より詳細な資料内容の調査と目録作成を行う作業について説明したい。本研究代表者は、ベトナム社会科学院社会情報研究所の所蔵する日本語資料について、平成27年度から29年度にかけての国文学研究資料館との共同研究「ベトナム社会科学院所蔵旧フランス極東学院資料についての研究」として採択されている。この研究と本研究課題とを連携させることで、同所蔵の調査の規模を拡大し、より体系的な研究成果として発展させていく。インドネシアにおけるインドネシア国立図書館の所蔵する日本語資料については、本研究代表者は、平成27年度早稲田大学特定課題研究助成費「インドネシア国立図書館所蔵日本語図書についての調査、及び研究」が採択され、現地調査を進めているが、単年度の助成であり、部分的にしか調査が進んでいない。本研究課題により、その成果を引き継ぎ、資料の総体を把握するためのより詳細な調査を進めていく。

3) 東南アジア地域の日本文化研究機関の歴史と現状についての情報収集・整備

最後に、東南アジア地域の日本文化研究機関の歴史と現状についての情報収集・整備の作業について説明したい。東南アジア各地域の日本語文献所蔵機関の調査を通して、本研究代表者は、各地の日本文学や日本文化を研究する機関と連絡をとり、協力をあおいできた。それは同時に、各地の日本研究の機関と連携しあう作業でもあった。しかしながら、同時に東南アジア地域の各国間では、政治体制の違いや国境を越えた研究者の移動に制約があることもあり、相互に研究情報の交換や研究者間の交流を活発に行うことが難しい状況にある。一方で、これら日本語文献を扱う機関は、日本の文化・文学研究に関する学術情報や文献の相互利用・共有といった面で連携しあえば、将来的に多様な可能性が開けてくることが予想される。そのために、日本文化・文学研究に力を入れている各研究機関の情報を収集・整備し、その情報をこれら各研究機関に発信していく仕組みを作っていく。

4. 研究成果

平成28年度

平成28年度は、インドネシア国立図書館の日本語文庫調査、目録整備事業、及びベトナムにおけるベトナム社会科学院の社会科学情報研究所所蔵資料の調査を行って成果をあげた。前者は、これまでに全く調査、目録化がなされていなかった日本語文庫であり、第二次大戦中に形成された文庫である。同機関の協力のもと、目録の作成、及び公開を行った。また、この文庫の成立の過程や特徴について調査し、明らかにしていった。その成果を、国際学会で報告を行うとともに、学会誌に論文として発表することとした。それとともに、現地の国際交流基金の支所、ジャカルタ日本文化センターと協力し、この成果を現地の研究者と共有することとした。後者の、ベトナム社会科学院については、平成28年度調査で、4,000点にのぼる和装本のすべての目録作成を終了した。その目録情報は同機関を通して公開されてきている。続いて、同機関所蔵の洋装本の調査を開始、その目録化作業と、内容についての分析を進めている。洋装本の目録作成作業は6割を終了しており、具体的な内容の分析や文庫自体の成立経緯を含めて、より踏み込んだ分析を進めており、その成果についても論文、研究報告等で公開した。

平成29年度

平成29年度においては、これまでに進めてきたベトナムにおける日本語文献、特に規模の大きい資料群であるベトナム社会科学院所蔵の日本語資料の調査、目録化の作業が、一つの区切り目を迎えた。すなわち、これまで5年間にわたる作業の結果、この機関の保存する約11,000冊の日本語資料の目録化を終了し、そのデータを当該機関や、内外各機関との連携のもとで公開する段階に至っている。それにともない、当該資料に含まれる個々の資料に関する調査や、資料群の成立過程の調査も進めることができた。これらは、研究報告や論文として、国際学会を含めた場

で公開を進めていった。

また、ベトナム以外では、インドネシアにおける日本語文献について、特に戦時下ジャカルタでの日本文庫成立の分析を進め、研究成果として公表した。ベトナム、インドネシアのそれぞれの資料に共通する課題として、それら資料とアジア・太平洋戦争期の日本の文化宣伝活動との関わりが重要となってきた。今後、この課題も重視しながら、各地での資料調査を進めていく必要がある。

平成 29 年度の調査では、ミャンマー、及びシンガポールでの調査をあわせて行った。シンガポールでは特に国立図書館の日本語資料を重点的に調査した。また、ミャンマーでは、ヤンゴンで国立図書館、及び大学等研究機関の所蔵する日本語資料について調査にあたった。

平成 30 年度

平成 30 年度も、未調査地域の調査、すでに調査している資料群の整備、分析、これらに基づいた研究発表を進めた。すなわち、未調査の地域としてはラオスにおける日本語資料の調査を実施した。国際交流基金アジアセンターのラオス支所に協力を得て、ラオス国立図書館、ラオス国立大学、及びラオス日本センター (LJI) において、日本語資料の所蔵状況を調査した。

また、これまでに発見した資料群については、ベトナム社会科学院の約 11,000 点の所蔵資料の目録化を終了したため、同機関とその情報を共有、整備するとともに、同資料についての報告をベトナムでの国際会議で行った。また、これら資料についての分析をもとに論文を公表した。これら東南アジア各地に遣された戦前・戦中の日本語資料群については、戦前・戦中の日本の対外文化戦略が大きくかかわっている。このため、研究の重点を、送られた資料群のみならず、資料を送り出していった日本の対外文化戦略へと移行させていく必要が生じてきた。

平成 31 年度

新たな研究計画へと発展的に展開していくため、本研究を「日本語文献の海外流通から見た第二次世界大戦期日本の文化戦略に関する研究」(基盤研究(C) 研究課題: 19K00333)へとひきつづぐこととした。研究の目的としては、第二次世界大戦前、及び戦中期の日本の国際文化戦略の中で、日本の書物を海外に送る、あるいは交換するという事業を調査し、その中で文学表現がどのような役割を負ってきたのかを明らかにする。特に、この時期に送られた日本語文献が保存されている米国、イタリア、東南アジア(インドネシア、及びベトナム)を対象とする。そのために、日本の海外文化戦略の中で送られていった文献の量、及び内容を調査するとともに、その流通ルート、及び事業を担った人、組織、さらには日本と現地との接点となった人、組織の活動を解明し、当時の日本の文化戦略の特徴、及びその中で日本文学の表現の果たした役割を検証し、明らかにする計画である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 和田敦彦	4. 巻 12
2. 論文標題 共同研究成果報告 ベトナム社会科学院所蔵・旧フランス極東学院日本語資料調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 リテラシー史研究	6. 最初と最後の頁 29-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 和田敦彦	4. 巻 11
2. 論文標題 在仏印日本文化会館関係資料について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 リテラシー史研究	6. 最初と最後の頁 37,47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 和田敦彦	4. 巻 216
2. 論文標題 日本占領下インドネシアの日本語文庫構築と翻訳作業	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アジア遊学	6. 最初と最後の頁 260,277
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 和田敦彦	4. 巻 761
2. 論文標題 図書館蔵書から読書の歴史を探る 日本占領期インドネシアの日本語図書から	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 14-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 和田敦彦	4. 巻 10
2. 論文標題 インドネシア国立図書館の日本文庫 総目録、及び文庫の特徴・課題	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 リテラシー史研究	6. 最初と最後の頁 33-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 和田敦彦
2. 発表標題 ハノイ日本文化会館資料から見えてくるもの 第二次大戦期の日本の文化外交
3. 学会等名 グローバル化時代における日本語教育と日本研究 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 和田敦彦
2. 発表標題 The Gift Left Behind: Japan's Cultural Propaganda during World War II, New York, Hanoi, and Rome
3. 学会等名 Realms of Words, University of Rome, Sapienza (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Atsuhiko Wada
2. 発表標題 Tracing the Routes of Book Distributions: A Challenging Approach in Studies of Japanese Literature
3. 学会等名 Bakumatsu-Meiji Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 甚野尚志・河野貴美子・陣野英則	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉洵出版	5. 総ページ数 415
3. 書名 近代人文学はいかに形成されたか	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>東南アジア日本文庫調査 http://www.f.waseda.jp/a-wada/tonan.html 和田敦彦研究室 http://www.f.waseda.jp/a-wada/</p>

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----